

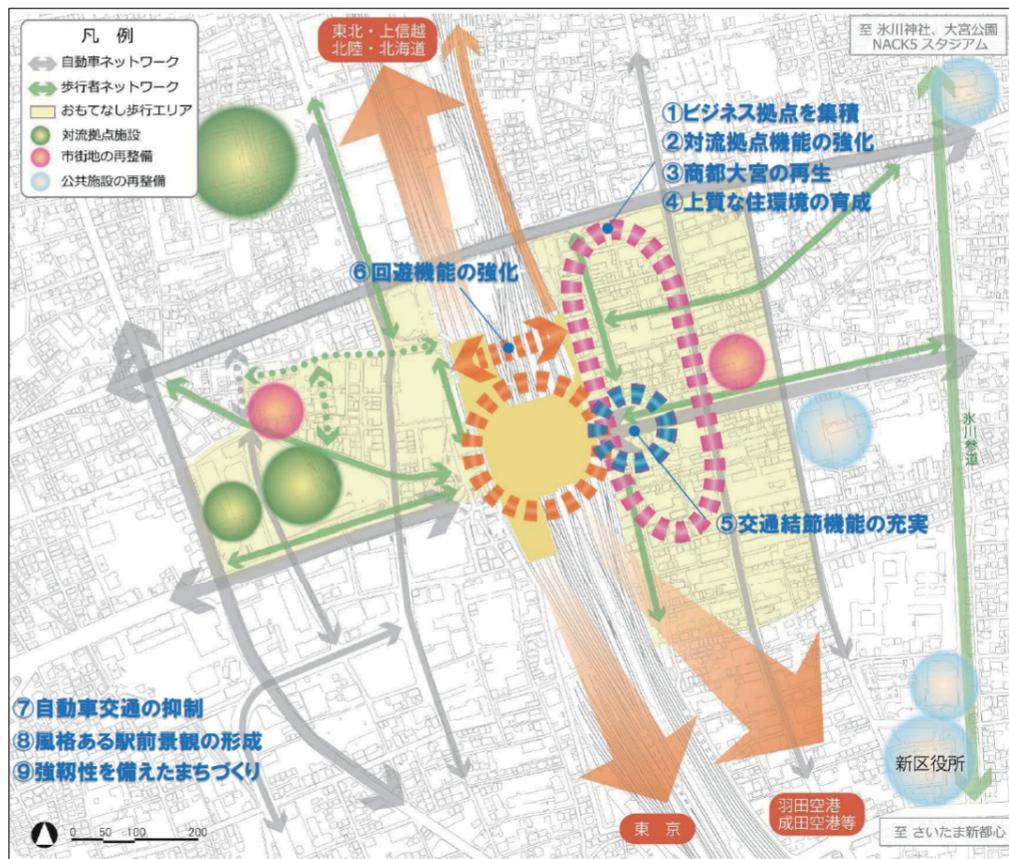
# 大宮駅東口駅前における〈都市基盤整備 × まちづくり〉の基本的考え方（案）

## 《まちづくりの基本とする観点》

- ◎交流空間・交通広場及び歩行者空間等の配置については、**複数の組み合わせ**が考えられます。
- ◎次頁以降においては、配置組み合わせを検討するための**イメージ・スタディパターン**を4案整理しました。
- ◎別途ご説明する、交通広場の概略検討図面や模型ワークと合わせて、ご検討ください。

本資料は、あくまで部会において検討を行うためのケーススタディとして作成しています。

《大宮グランドセントラルステーション推進会議において検討されている整備方針図（案）》



**1** 対流拠点として人を迎え入れられる、駅前における安全安心で居心地の良い場を形成していく。

適切な規模の交流空間の整備（その位置は交通広場の位置と要調整）

**2** 街なかを楽しく歩き回ることのできる歩行者の回遊ネットワークを、交流空間を起点としつつ再構築する。

各地区のまちづくりによる、ネットワークされた歩行者空間の整備

**3** 鉄道と他交通手段の円滑で利便な乗換えが行える交通結節拠点を、交流空間や歩行者空間と調和させつつ形成する。

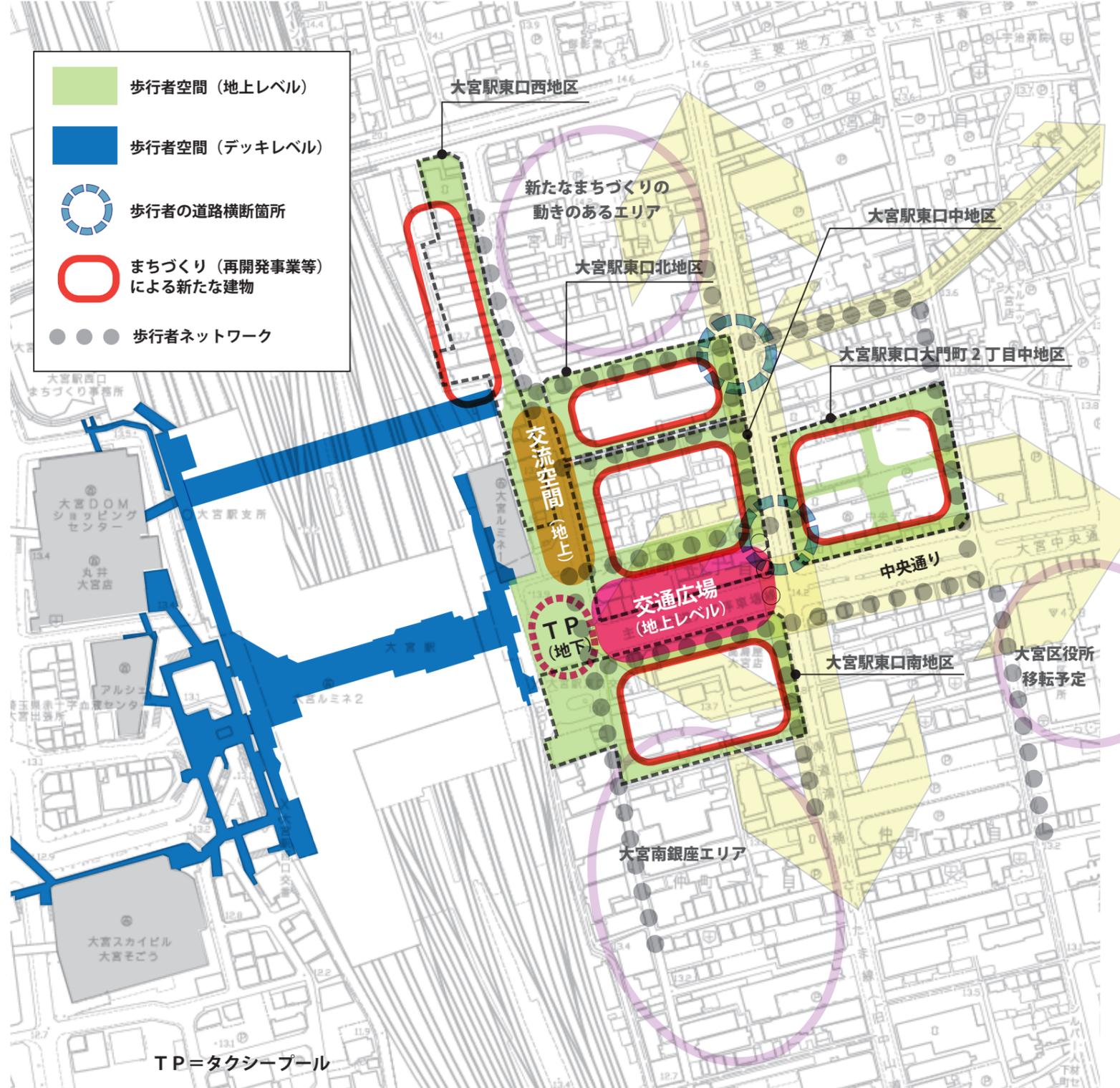
適切な規模の交通広場の整備（その位置は交流空間の位置と要調整）

**4** 交流空間・交通広場・歩行者空間等の整備にあたっては、4地区のまちづくりの事業化熟度に合わせ、各地区の土地利用と一体的・段階的に整備していく。また、4地区の協調により大宮らしさを発展的に継承する機能分担と景観形成を図っていく。

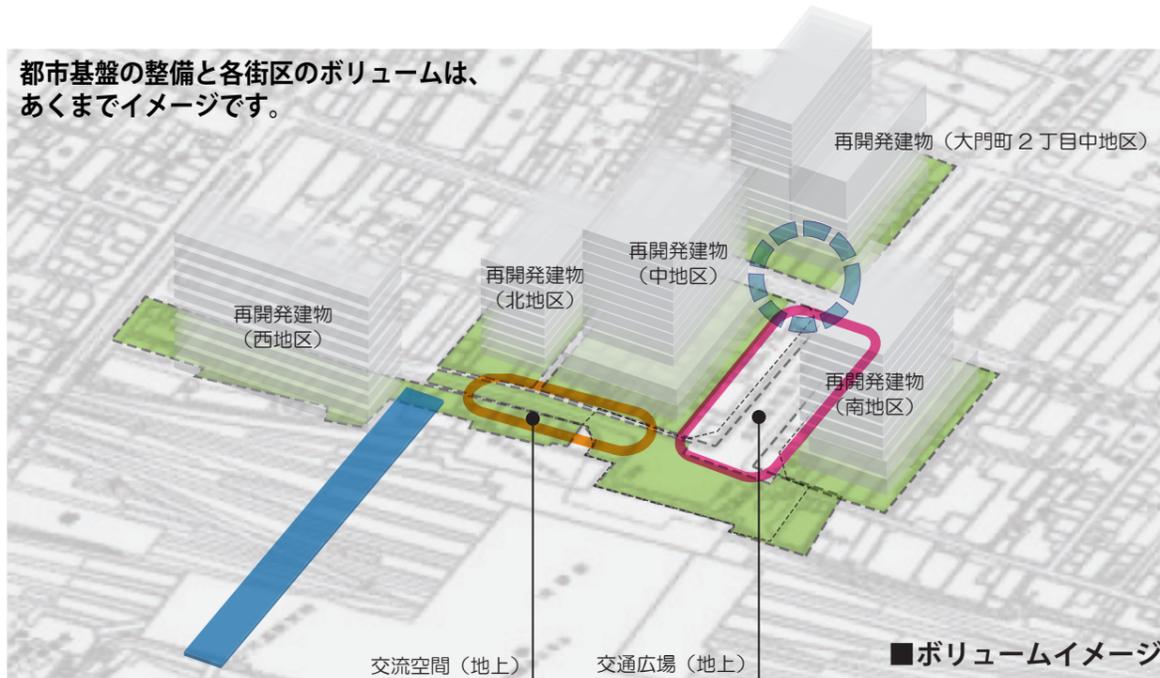
4地区における、まちづくりの推進（市街地再開発事業等の適切な事業手法を活用）

- ◎中地区・北地区・西地区にまたがり、南北に伸びる形での交流空間を地上レベルで確保
- ◎地上レベルを主とした歩行者空間を、4地区のまちづくりを通して連続的に創出
- ◎駅正面の中央通りの一部及び南地区と中地区のそれぞれの敷地の一部（地上レベル）を活用して、交通広場を配置（基盤整備推進部会で検討された「アイランド案」「集約案」がこれに相当する）

■スタディパターン1における〈都市基盤整備 × まちづくり〉の配置概念図



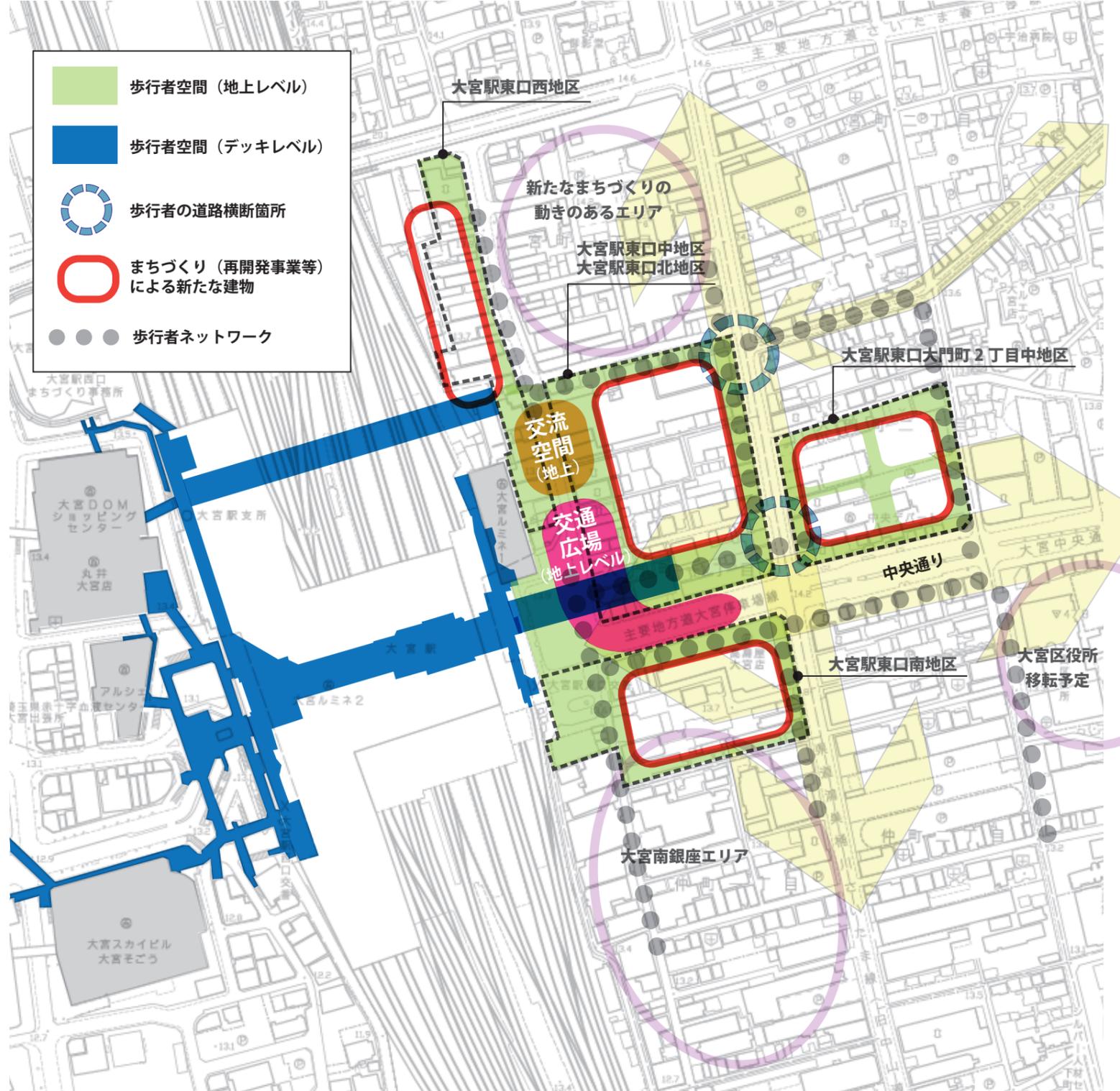
都市基盤の整備と各街区のボリュームは、あくまでイメージです。



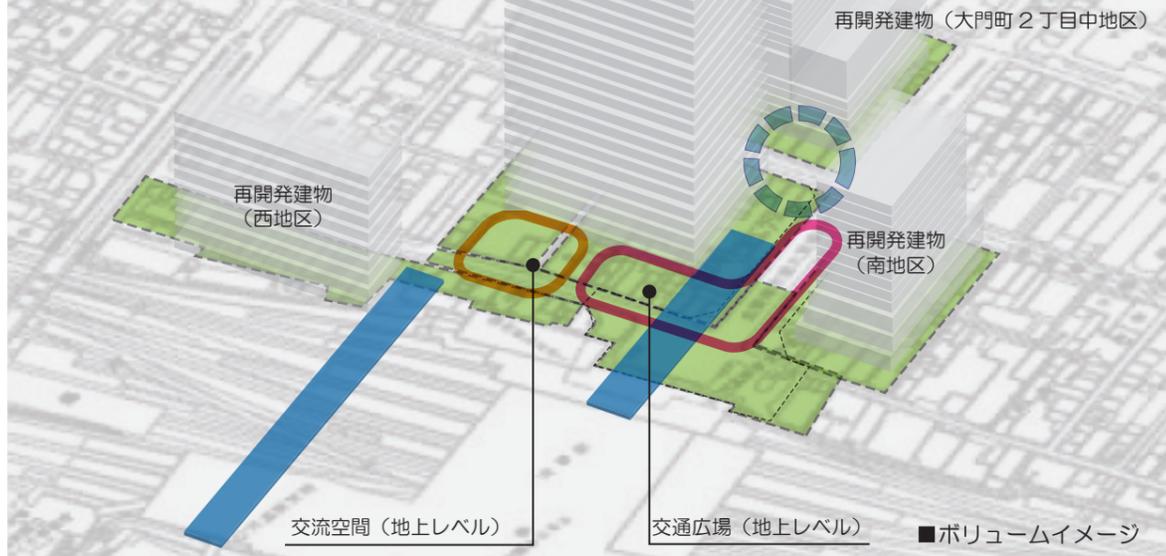
TP=タクシープール

- ◎中地区・北地区・西地区にまたがり、まとまった形での交流空間を地上レベルで確保
- ◎地上レベルを主としつつ、交通広場上部はデッキレベルを介して、歩行者空間を、4地区のまちづくりを通して連続的に創出
- ◎駅正面の中央通りの一部及び中地区・西地区の敷地の一部（地上レベル）を活用して、交通広場を配置
- ➡中地区と北地区は一体的なまちづくりを想定

■スタディパターン1'における〈都市基盤整備 × まちづくり〉の配置概念図

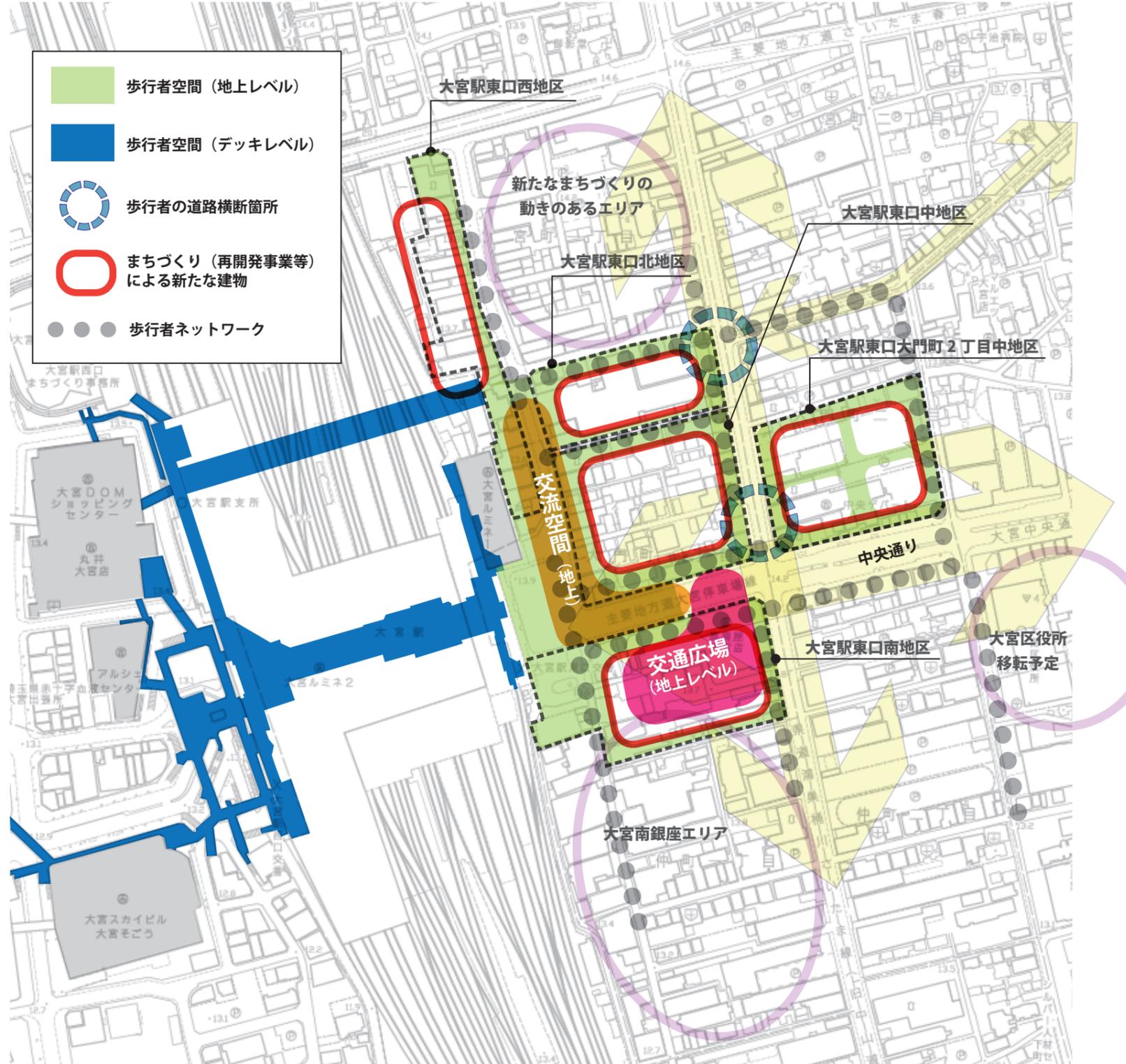


都市基盤の整備と各街区のボリュームは、あくまでイメージです。

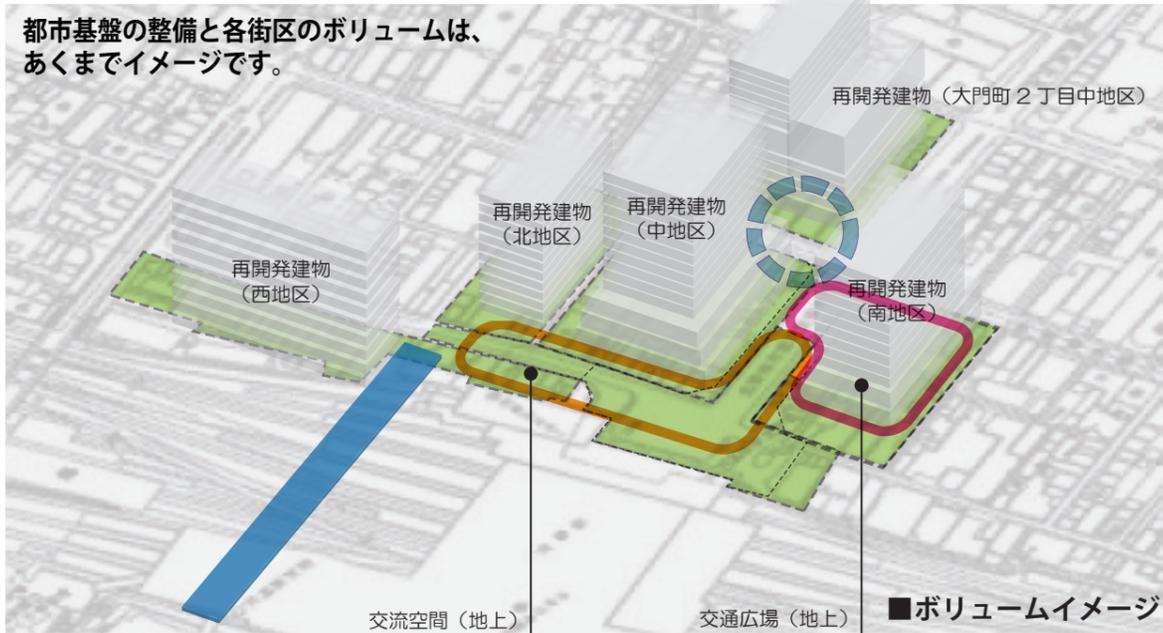


- ◎中地区・北地区・西地区、及び、中央通りの一部にかけて広がりのある形での交流空間を地上レベルで確保
- ◎地上レベルを主とした歩行者空間を、4地区のまちづくりを通して連続的に創出
- ◎駅正面の中央通りの一部及び南地区の敷地内（地上レベル）を活用して、交通広場を配置

■スタディパターン2における〈都市基盤整備 × まちづくり〉の配置概念図

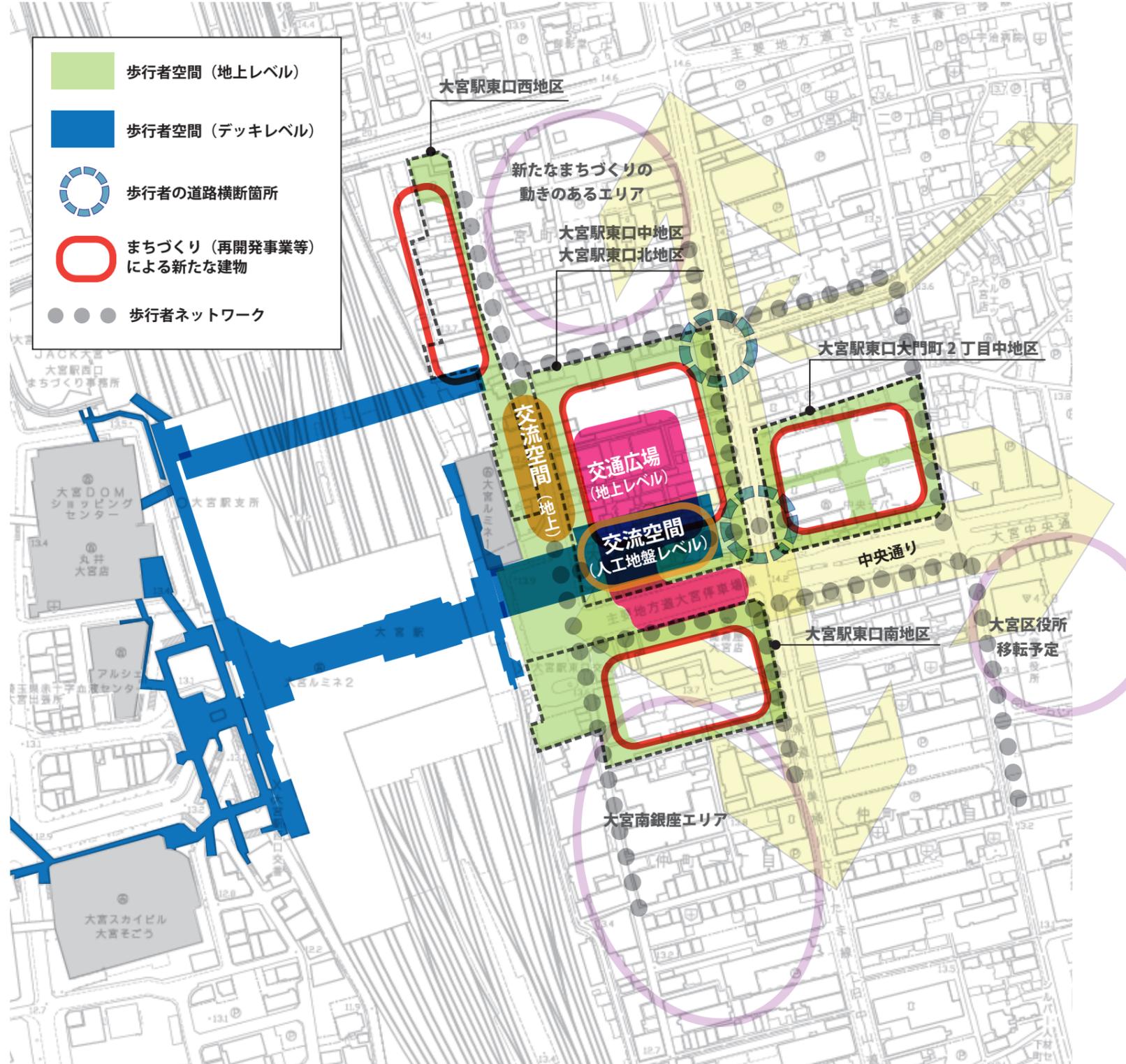


都市基盤の整備と各街区のボリュームは、あくまでイメージです。



- ◎中地区・北地区・西地区にまたがり、南北に伸びる形での交流空間を地上レベルで確保するとともに、中地区南側に設ける人工地盤上にも交流空間を確保
- ◎地上レベルを主としつつ、交通広場上部の人工地盤レベルとを重層させることによる歩行者空間を、4地区のまちづくりを通して連続的に創出
- ◎駅正面の中央通りの一部及び中地区・北地区の敷地の一部（地上レベル）を活用して、交通広場を配置
- ➡中地区と北地区は一体的なまちづくりを想定

■スタディパターン3における〈都市基盤整備 × まちづくり〉の配置概念図



都市基盤の整備と各街区のボリュームは、あくまでイメージです。

